

平成 29 年度（独立行政法人 教職員支援機構委嘱事業）
教員の資質能力向上のための研修プログラム開発支援事業

プログラム名

保幼小接続期教育推進のための研修プログラム開発
—「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」からみた発達の連続性—

事業の目的

新教育・学習指導要領では、接続期教育の充実が改訂のポイントの一つに位置づけられている。就学前後の連携の重要性が増すなか、小学校教員に対しては幼児教育の学びの軌跡を踏まえた教育実践を行うための資質・能力の向上に役立つ研修が必要である。幼稚園及び保育園等の教員に対しては小学校教育を見据えた保育実践を行うための資質・能力の向上に役立つ研修が求められる。以上のことから、小学校教員と幼稚園・保育園等教員に対して保幼小接続期教育の充実を図る研修プログラムを開発することを目的とする。

プログラムの概要

研修対象は、神戸市内の公立及び私立の幼稚園・保育園等に勤務する教員・保育士と、神戸市立小学校で主に低学年の担任をする教員である。神戸市では小学校に入学してくる児童の約 8 割が私立の幼稚園・保育園等の出身であるため、研修対象を公立に限定せずに私立にまで広げる点が第 1 の特徴である。研修内容については、神戸大学教員とベテランの学校園教員等が講師となり、アクティブラーニングを含む理論的・実践的な研修講座を開催する。その際、従来の幼稚園教育の内容（5 領域）ではなく、新たに設定された 10 の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を基準にして接続期教育の研修講座を企画・実施することが第 2 の特徴である。実施後は、インターネット上で各回の講座内容の概要を掲載するとともに、それをもとに「保幼小連携教育ハンドブック」を作成し市内の学校園に配布する。研修終了後も広く神戸市内の教員・保育士が各学校園での研修を行う際の参考となる資料を作成する点が第 3 の特徴である。

<第 1 回セミナー>

①目的： 教育制度改革、カリキュラム論の観点から、このたびの改訂（改定）のポイントについて理解を深める。特にカリキュラム・マネジメントや子どもの育ちや学びの姿の共有をいかに図り、接続期教育の充実を図るかを考察する。

②日程：平成 29 年 6 月 16 日（金）、18:30～20:15

場所：神戸市総合教育センター

③講師：北野幸子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）

④題目：「指針、教育・保育要領、教育要領、学習指導要領の改訂（改定）のポイントとこれからの接続期教育」

⑤内容：

このたびの要領・指針の改訂について、特に接続期の観点から解説した。経験主義教育と教科主義教育の違い、改訂に伴う不易と流行などについて概説した。加えて、次世代育成の連携の重要性や、接続期教育の強化を図るために「資質・能力の 3 本の柱」「幼児期のおわりまでに育ってほしい 10 の姿」の共通理解を図ることの必要性について講じた。

⑥受講対象者とその人数： 市立・私立幼稚園教員、市立・私立保育園教員、認定こども園教員、小学校教員等、 209 人

<第 2 回セミナー>

①目的：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のなかの「健康な心と体」、「自立心」を中心に、接続期教育の理論と実践についての知識・技能を高める。

②日程：平成 29 年 7 月 25 日（火）、18:30～20:15

場所：神戸市総合教育センター

③講師：(1)米田和正・山田美紀子（元気ジム）

(2)國土将平（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授）

④題目：(1)「みんなげんき運動とうたあそび」

(2)「遊びから発生する動きの多様性から保幼小接続期教育を考える」

⑤内容：

セミナーの前半では、「運動遊び・表現遊び・歌遊び・指遊び」など幼児が元気に笑顔で歌って動けるような指導法の体験活動を行った。セミナーの後半では、前半の指導法の特徴を解説し、また、次期幼稚園教育要領の改訂のポイントならびに幼児期までに育って欲しい姿のうち「健康な心と体」の観点を概説するとともに子どもの発育状況に基づいた運動

遊び経験の重要性について幼児期運動指針や研究資料に基づき解説した。

⑥受講対象者とその人数： 市立・私立幼稚園教員、市立・私立保育園教員、認定こども園教員、小学校教員等、 214人

<第3回セミナー>

①目的：接続期教育の理解の深化を図り、具体的な実践事例から幼保小の連携を実際に進める方法について学ぶ

②日程：平成29年8月17日（木）、13:30～16:00

③講師：北野幸子（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）

場所：神戸市総合教育センター

④題目：「遊びこみから、学びこみへ～これからの保幼小接続期教育を考える～」

⑤内容：

接続期教育の大きな成果は子どもの不安の軽減、自尊感情や自己効力感、学びへの意欲の向上である。その前提が保幼小の垣根を越えた同僚性の形成であることを講じた。

小学校教育の基盤となる幼児期において、しっかりと遊びこむことが、小学校以降のしっかりとした学び込みにつながるように、資質能力の3本の柱を意識すること、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共通認識を広げることと関連し、その具体的な方法などについて講じた。

⑥受講対象者とその人数： 市立・私立幼稚園教員、市立・私立保育園教員、認定こども園教員、小学校教員等、 170人

<第4回セミナー>

①目的：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のなかの「思考力の芽生え」、「自然との関わり・生命尊重」を中心に、自然との関わりを通して科学的学びの基礎について理解を深める。

②日程：平成29年9月5日（火）、18:30～20:15

場所：神戸市総合教育センター

- ③講師：(1)鷺尾正則（神戸市立王子動物園）
(2)稲垣哲成（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授）

- ④題目：(1)「動物の見方・動物園の利用について」
(2)「科学的気づきの基礎を中心に接続期教育を考える」

⑤内容：

セミナーの前半では、神戸市立王子動物園の鷺尾正則氏から、幼児期及び小学校低学年の子どもが動物園を訪問した際、彼らが観察可能な動物の生態についての解説が行われた。また、同園が作成している動物クイズの紹介がなされた。セミナーの後半では、神戸大学の稲垣が同じく動物園での動物の観察に関わる学習段階とそれぞれの段階における観察の特徴について紹介するとともに、ペンギンを事例にして、動物の形態と機能を発見できる観察の要点について講義がなされた。

- ⑥受講対象者とその人数： 市立・私立幼稚園教員、市立・私立保育園教員、認定こども園教員、小学校教員等、67人

<第5回セミナー>

- ①目的：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のなかの「協働性」、「道徳性・規範意識の芽生え」、「社会生活とのかかわり」を中心に、「話し合い活動」を通じた道徳性の育成について知識・技能を高める。

- ②日程：平成29年10月16日（月）18:30～20:15

場所：神戸市総合教育センター

- ③講師：(1)田中孝尚（神戸大学附属幼稚園副園長）
(2)渡邊隆信（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授）

- ④題目：(1)「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の観点から遊びの中の学びを捉える～「道徳性・規範意識の芽生え」、「協調性」等に焦点をあてて～
(2)「特別の教科 道徳」と「道徳性・規範意識の芽生え」から接続期教育を考える

⑤内容：

セミナーの前半は田中孝尚氏が、学習指導要領及び幼稚園教育要領改訂の概要を述べた後、神戸大学附属幼稚園での実践に関するエピソード記録を資料としながら、園児の会話や行動の「事実」の「解釈」を区別したうえで、教員が多面的な「解釈」することの意義と留意点を述べた。セミナーの後半では、渡邊が、道德教育の歴史的展開をたどりながら、平成30年度全面実施となる「特別な教科 道德」（道德科）の目標・内容とその特徴を論じた。続いて、道德科の内容項目と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の10観点を比較した。最後に、加西市立賀茂幼稚園における「小さな種からうまれた絵本」活動を紹介し、そこでの道德教育と幼小連携について具体的に検討した。

⑥受講対象者とその人数： 市立・私立幼稚園教員、市立・私立保育園教員、認定こども園教員、小学校教員等、79人

<第6回セミナー>

①目的：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のなかの「数量・図形、文字等への関心・感覚」を中心に、接続期教育において数量・図形等に親しむ体験や遊びについて理解を深める。

②日程：平成29年11月14日（月）18:30～20:15

場所：神戸市総合教育センター

③講師：(1) 田中孝尚（神戸大学附属幼稚園副園長）

(2) 岡部恭幸（神戸大学大学院人間発達環境学研究科教授）

④題目：(1) 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の観点から遊びの中の学びを捉える
～「数量や図形、標識や文字等への関心・感覚に焦点をあてて～」

(2) 「算数・数学」と「数量形等への興味や感覚の芽生え」から接続期教育を考える。

⑤内容：セミナーの前半では、神戸大学附属幼稚園の田中が数量や図形、標識や文字等への関心・感覚を中心に「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の内容と活用方法について説明した。同園での実践についてのエピソード記録や文科省がまとめたビデオを資料としながら、園児の遊びの姿から「事実」をみとり、それを「解釈」することの意義や留意点について検討した。

セミナーの後半では、神戸大学の岡部が、近年の数理認識の研究をふまえて幼児期の遊びから小学校での教科としての算数への接続について具体的な内容とその特徴、留意すべ

きことなどについて論じた。

さらに、数・量・図形の各内容について、小学校での算数での子どもの困難性や実際の教室での学びの様相を取り上げ、その小学校での児童の姿がどのような幼児期での経験や姿からつながっていくか、数理認識の発達連続性を視点に検討した。

⑥受講対象者とその人数： 市立・私立幼稚園教員、市立・私立保育園教員、認定こども園教員、小学校教員等、96人

<第7回セミナー>

①目的：「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のなかの「言葉による伝え合い」、「豊かな感性と表現」を中心に、接続期教育における感性と言語活動の育成に関する知識・技能を高める。

②日程：平成29年12月13日（水）18:30～20:15

場所：神戸市総合教育センター

③講師：(1)山崎康子（わかばの会）

(2)目黒強（神戸大学大学院人間発達環境学研究科准教授）

④題目：(1)絵本の世界を子どもと共に

(2)絵本の選書から接続期教育を考える

⑤内容：

セミナーの前半では、「わかば会」主宰の山崎が絵本の読み聞かせの実演を通して、絵本作家の意図・創作民話の物語体験・絵の役割・言語感覚の育成などの意義と留意点について、子どもの具体的な姿を交えながら説明した。セミナーの後半では、神戸大学の目黒が幼稚園・保育所と小学校における読書環境の制度的課題を指摘した後、絵本の選書における文化的多様性の保障と読みやすい絵本の選書基準について検討し、接続期における絵本の選書の課題を明らかにした。

⑥受講対象者とその人数： 市立・私立幼稚園教員、市立・私立保育園教員、認定こども園教員、小学校教員等、88人